

(対象事業：3 美術館・博物館の自主企画による諸外国との交流展覧会等の事業)

事業名：アーティスト・イン・レジデンス事業
「アルゼンチンからのアートな新風」

事業者名：九州産業大学美術館

連携事業館名：

住所：福岡県福岡市東区松香台2-3-1

TEL：092-673-5160

FAX：092-673-5160

HPアドレス：<http://www.ip.kyusan-u.ac.jp/>



①施設概要

九州産業大学美術館は、九州産業大学芸術学部が30年来収集してきた作品を本学の芸術教育研究のみならず、地域の方々の生涯学習のための活動を行う拠点として、平成14年4月に常設の公共美術館として発足しました。

②事業の意図目的

アルゼンチンは、南米大陸南部の大部分を占め、人口3,600万人、面積278万km²、南北の全長は3694kmにおよび、亜熱帯、温帯、乾燥、寒冷気候の大きく4つに分かれた豊かな自然環境を持っています。そうしたアルゼンチンの文化・芸術について、地球の裏側にある日本、そして福岡ではなかなか知る機会がないのが現状です。

そこで九州産業大学美術館は、アルゼンチンの写真家マルコス・ツィーマーマン氏の展覧会に関連して、マルコス・ツィーマーマン氏を招聘したアーティスト・イン・レジデンス事業を行い、6カ国15大学と国際交流協定を結ぶ九州産業大学や九州唯一写真学科をもつ本学芸術学部と連携しながら、共同研究、ギャラリートーク、ワークショップ、及び文化講演会等を通じて、アルゼンチンの自然・文化・芸術を紹介するとともに、今後の両国の国際交流推進の一助とします。

③事業概要

- ギャラリートーク「マルコス・ツィーマーマンの心象世界」
- 「マルコス・ツィーマーマンによるワークショップ1・2」
- 文化紹介「アルゼンチンの歴史と文化」
- マルコス・ツィーマーマンとの共同研究

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他(チラシ、ポスター、ポストカード)
作成した報告書等

ビデオ ()
冊子 ()
その他 ()

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 350 人

内 訳(大学生、社会人 等) ※展覧会入館者数 650人

(1) 事業の実施状況について

本事業は、4つの国際交流事業から構成されています。

①ギャラリートーク「マルコス・ツィーマーマンの心象世界」

実施日：平成17年1月22日(土)

内 容：マルコス・ツィーマーマン氏自身による作品解説を行った。

効果等：作者はアルゼンチンという土地や住む人々を撮影しているが、来館者は作品を鑑賞するだけでは知り得ることのない作者の作品に対する考えや思い、撮影された状況を詳しく知ることができ、作品に対して、ひいてはアルゼンチンという国・文化に対して理解が深まった。



来館者の前で作品解説を行う作家のマルコス氏

②「マルコス・ツィーマーマンによるワークショップ1・2」

実施日：平成17年1月23日(日)、24日(月)

内 容：ワークショップ1／マルコス・ツィーマーマン氏と写真家を志す大学生や一般写真愛好家たちとの撮影会ツアーを行った。

ワークショップ2／ギャラリートーク形式で、より深く作品について高度な芸術的視点から作品解説を行った。その後、学生・大学院生等のポートフォリオに対し、助言や議論を行った。

効果等：普段は日本の写真教育を受けることが多いが、アルゼンチンという日本と異なった気候・風土・文化を持つ国においての写真に対する臨み方や考え方等が、米国や欧州で活躍する一流写真家から学ぶことができた。このことによって、日本の写真教育だけでは容易には育ち得ない、世界に目を向けた国際感覚豊かな写真家の資質が身についた。

③文化紹介「アルゼンチンの歴史と文化」

実施日：平成17年1月22日(土)

内 容：アルゼンチン大使館員によるビデオやスライドを用いたアルゼンチンの歴史と文化を紹介する講演会を行った。

効果等：現職のアルゼンチン大使館員の話聞くことによって、多くの地域の方々や学生に実際のアル



アルゼンチン文化などについて語る大使館職員

ゼンチンの文化や環境などを伝えることができ、また皆、アルゼンチンに興味・好感を抱かれ、国際交流・異文化理解の促進に繋げることができた。

学生の中には、多数の言語を操る大使館職員に驚き、『大使館職員』『通訳者』という職業に興味を抱く学生もいた。

④マルコス・ツィーマーマンとの共同研究

実施日：平成17年1月25日（火）ー平成17年1月27日（木）

内 容：マルコス・ツィーマーマンと九州産業大学芸術学部写真学科、九州産業大学美術館による「アルゼンチンの写真界」等についての共同研究を行った。

効果等：世界の写真界についてアルゼンチンはもとより、イタリア、アメリカ、カナダで活躍するマルコス・ツィーマーマン氏との共同研究により、海外の写真事情についてつぶさに知る機会となった。

（2）地域との連携について

地域の博物館・美術館に広報物の送付を行い、広報活動の支援を依頼した。

（3）成果物について

・チラシ（A4サイズ）

広報物。他美術館や地域情報紹介・交流スペースなどに掲示してもらうため、送付。

・ポスター（B2サイズ）

広報物。他美術館や地域情報紹介・交流スペースなどに掲示してもらうため、送付。

・ポストカード（ハガキサイズ）

配布物。来館者などのため。

（4）参加者の反応

『南米の写真をほとんど観る機会がないので、とてもうれしかった。このような展示会があれば、また来たい』などのように、これまでアルゼンチンを未知の国やあまり知る機会のない国というイメージが強かったが、今回の事業に参加することにより「文化や風景を知ることができて良かった」「アルゼンチンという国が少しでも理解できた」という声が聞かれた。実際に作家の話を聞くことができたことで、来館者がより深い理解、より強い刺激を受けた、とアンケートや直接話を聞いたりすることなどから伺いしれる。

またアルゼンチンのみならずアメリカやヨーロッパ各国で活躍する一流の写真家から、自分の作品に対して意見を直に聞く機会もあり、新たな視線で自己の作品に接することができ、作品制作に新たな方向性がみえたことだろう。

（5）芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

九州においては海外の一流の作家の話を聞く機会はなかなか恵まれない。事実、今回の展示会はアルゼンチン写真家として九州初であった。そのようなこともあってか、今回の事業には、学生や写真関係者、アルゼンチンに興味のある方、アルゼンチンに在住されて

いた方、また南九州の各県などからの遠方の方々も来館した。

今回のアーティスト・イン・レジデンス事業では、授業や日常の生活ではなかなか経験することのないワークショップやギャラリートーク、共同研究などを通して、多くの方々にとって、上質の芸術教育・生涯学習を提供することが出来た。文化交流という側面からも、普段触れることの少ないアルゼンチンの文化・風土に興味を持ち、親しむことが出来た。今回の事業が多くの方々にとって、国際交流・異文化理解の促進へのきっかけとなったと思われる。